

1. はじめに

「体験型海外教育実地研究」のお話を広島大学からいただいたとき、初めは正直なところ戸惑いがあった。しかし、その戸惑いが大きな意欲に変わったのは、7月18日に行われた「第5回学校間国際交流フォーラム」に参加してからである。フォーラムでは、GPSCの意義や理想、これまでの取組みを知りとても深い感銘を受けた。そして、これから生きていく子どもたちにとって国際理解教育がどのようにあるべきなのかをつかむことができるきっかけになるのではないかと考えた。

私自身が異文化を体験し、関わっていき、そこで得たものを子どもたちに語っていくことで、より豊かな感性を育てていくことができるのではないかと考え、本研修に参加した。

2. 実地研究の日程と概要

		交通等	訪問地・用務等	泊
5/7	木	14:40-16:00	渡航までの日程や諸準備の確認 授業研究テーマの設定方法	
6/4	木	14:40-16:00	授業研究テーマ案の交流	
7/1	木	11:00-12:40	米国グループ（米国よりタッカーさん他計15名）三ツ城小学校訪問	
7/9	木	14:40-16:00	学習指導案の検討	
7/18	土	13:10-16:30 17:30-	第5回学校間国際交流フォーラム（広島大学L104にて） 懇親会	
7/19	日	10:00-	スケジュール確認と指導案検討 （レッドフォード先生、クーパー先生）	
7/30	木	14:40-16:00	学習指導案の検討	
8/27	木	14:40-16:00	学習指導案の検討及び教材・教具の作成 渡航のための手続き	
9/3	木	14:40-16:00	学習指導案の検討及び教材・教具の作成 渡航準備	
9/9	水	14:40-16:00	直前の打ち合わせ 報告書作成及び発表会の打ち合わせ	

9/12	土	広島→成田 0745-0925 (NH-3128) 成田→ワシントン 1105-1040 (NH-2) ワシントン →ローリー 1235-1340 (UA-7144)	6:30 広島空港集合	<u>City Hotel & Bistro</u> 203 W. Greenville Blvd, Greenville, NC27384 TEL(877)271-2615 Greenville
9/13	日		10:00- イーストカロライナ大学 見学・昼食 17:30- 博物館見学・夕食	<u>City Hotel & Bistro</u> 203 W. Greenville Blvd, Greenville, NC27384 TEL(877)271-2615 Greenville
9/14	月		8:30- Wahl-Coates E.S.訪問 学校・授業見学	Greenville 同上
9/15	火		8:30- Wahl-Coates E.S.訪問 授業実践 (日高さん) 「Doll's Festival」 授業実践 (高谷) 「What is your treasure?」	Greenville 同上
9/16	水		The Oakwood S.訪問 学校・授業見学 Arendell Parrott Academy 訪問 学校・授業見学	Greenville 同上
9/17	木		ローリー市内見学 美術館見学 Exploris M.S.訪問 学校・授業見学	<u>Holiday Inn Crabtree</u> 4100 Glenwood Ave, Raleigh, NC27612 TEL(919)782-8600 Raleigh
9/18	金	ローリー →ワシントン 1025-1130 (UA-197)	ワシントン訪問 米国の文化・歴史見学	<u>Washington Plaza Hotel</u> 10 Thomas Circle, N.W. Washington D.C. 20005-4176,USA TEL(202)842-1300
9/19	土		ワシントン訪問 米国の文化・歴史見学 (スミソニアン博物館等)	Washington D.C. 同上

9/20 9/21	日 月	ワシントン→成田 1220-1525 (NH-1) 成田→広島 (バス) 羽田→広島 19:30-21:00 (NH687)		
11/12	木	1640-1830 (C527) 発表会『アメリカで実践した授業の概要、成果、課題等についての発表』		

3. 実地研究授業

3. 1 単元等名 第4学年 Classroom Activity : What is your treasure ?

3. 2 事前準備

① 単元設定の理由

本単元で「宝物」について取り上げた。宝物とは、子どもから大人まで、誰もがもっているものである。私は、住んでいる地域や文化の違う同年代の子どもたちが、宝物についてどのように考えているのか知りたいと思った。そして、日本とアメリカの子どもたちが考える宝物を通して、日本とアメリカの考え方や思いの同じところや違うところを見ていくことにした。また、宝物について交流させることを通して、日本とアメリカの考え方や思いの同じところや違うところを日本とアメリカの子どもたちが互いに知ることを目的とした。そして、互いが知ることを通して、自分とは異なる国の文化や考え方について、国際理解の第一歩である「知りたい・もっと知りたい」という思いをさらにもたせるために本単元を設定した。

② 準備物とその意図

○ 日本のアニメ

日本とアメリカでは、同じところもあれば違うところもあることに興味をもちやすくさせるために、授業の導入で、日本の子どもたちに人気のあるアニメを紹介した。しかし、アメリカの子どもたちが全く知らないアニメでは、同じところ・違うところに興味をもたせることができないため、事前にアメリカでも放送されているものを調べておき、そのアニメも含めて紹介した。

○ 日本の子どもたちが描いた宝物

アメリカの子どもたちがより高い興味・関心をもってみることをできるようにするため、日本の子どもたちの作品を、クイズのようにめくると書いた人物や理由がわかるように工夫した。日本の子どもたちは、「どのように描いたらうまく伝わるだろう」「相手は自分の宝物を見たらどう思うだろう」など、相手意識をもって取り組んだ。

○ 「友達」と書いたしおり

子どもたち同士が交流を深めるきっかけになればと思い、友達と書いたしおりを作成し、一人一人に手渡した。

3. 3 学習指導案

Lesson Title : What is your treasure ?

Grade Level : 4th grade

Subject : Classroom Activity

Description : This lesson is about the differences between Japanese and American.

First, introduce the Japanese Animation.

Second, ask about their treasure.

Third, let them to draw their treasure on the paper.

Fourth, let them to introduce their treasure.

Fifth, introduce the treasures of Japanese students.

Sixth, know the differences and the same between Japanese and American.

Goal : The students will be able to promote a friendship with Japanese student.

Materials : drawings what Japanese students write, drawing paper,
letters what Japanese students write, big paper, bookmarks

Teaching process

Student's activity	Teacher's activity	Materials
1. The students will interested in Japan and Japanese, and understand today's goal.	Show the Japanese students photo and Japanese Animation	
2. The students will draw their treasure on the paper and introduce it.	Ask about their treasure. Let them to draw their treasure Let them to introduce their treasure.	drawing paper
3. The students will know the treasure of Japanese student.	Introduce the treasure of Japanese student.	big paper drawings what Japanese student write
4. The students will know the differences and the same between Japanese and American.	Listen to the students' impressions. Answer the students' questions.	
5. The students will listen about the teacher's impression on the class.	Talk about my impressions and farewell to the class. Give them presents from Japanese students	bookmarks

3. 3 授業の実際

(1) 導入

自己紹介と日本の子どもたちのクラス写真を紹介した。そして、日本の子どもたちに人気のあるアニメをランキング形式で紹介した。アメリカの子どもたちが知っているものも用意しておいたため、アニメを知っているかどうかを尋ねると、積極的にアニメ名を答えるなど興味をもって取り組んでいた。

(2) 宝物について知り、絵と理由を書く

本授業での目標を板書した。子どもたち一人ひとりにB6版の画用紙を渡し、宝物の絵を描かせ、またなぜそれが宝物なのかの理由も書かせた。子どもたちは、わからないところなどは質問するなど、積極的に取り組んでいた。



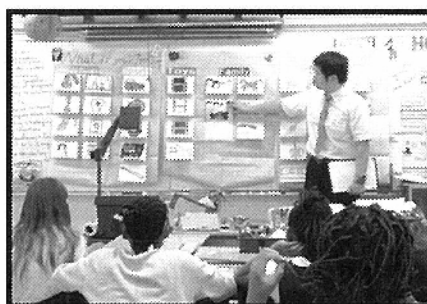
【写真1 宝物を描いている児童】

(3) 宝物の発表

描いた絵とその理由を発表した。子どもたちに発表させる前に、日本の子どもたちの考えた予想をランキング形式で紹介した。日本の子どもたちは、自分の宝物と同様にゲーム等のおもちゃが多いと予想した。発表の中には、私自身が改めて考えさせられるようなものもあった。

(4) 日本の子どもたちの宝物の紹介

日本の子どもたちが書いてきた宝物を紹介した。その際に、自分の宝物と同じもの同じ理由、違う宝物違う理由があるかについて興味をもたせるために、今度はアメリカの子どもたちに日本の子どもたちが考える宝物について予想させた。その後、模造紙に貼った宝物の絵を掲示した。



【写真2 日本の宝物の紹介】

(5) 感想の発表

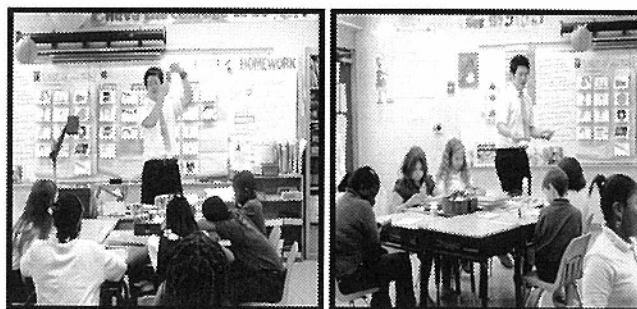
前に出て、全員分が見られるようにした。その後感想を発表した。絵の上手な所を発表する児童もいたが、自分の宝物と比べた感想を発表する児童が多かった。



【写真3 全員の絵を見ている児童】

(6) 終末

今日の授業の感想を話し、日本の子どもたちが作ったしおりをプレゼントした。このしおりには、日本の子どもたちが筆で『友達』と書きこんでいた。『友達』の意味を説明すると、アメリカの子どもたちは、大切に受け取っていた。



【写真4 しおりの『友達』の説明を聞き、大切に受け取る児童】

3. 3 考察 (○成果, ●課題)

- 宝物を紹介する前に、どんなものが多いか考えさせることで、子どもたちは自分の宝物と比べながら、作品を見ることができた。
- 導入部分で日本のアニメを紹介することで、日本とアメリカでは、同じところもあれば違うところもあることに興味をもちやすかったのではないかと考えている。
- 日本の子どもたちの作品を提示する際、ただ提示するのではなく、クイズのようにめくると書いた人物や理由がわかるように工夫した。そのことで、アメリカの子どもたちは、より高い興味・関心をもってみることができた。
- 私自身のコミュニケーション能力が足りないということを強く感じた。英語で行うことに対しての不安があり、的確な指示やアドバイスをすることができなかった。担任の Mrs. Watson に助けをもらう部分も多々あった。指示する内容について、もっと吟味する必要があった。

4 体験型教育実地研究における自己変容

4. 1 教育観の変容

① 子ども観

アメリカで私が出会った子どもたちは、学習に対する意欲がとても高く、向上心もとても高かった。また授業に対する積極的な姿勢も素晴らしかった。アメリカは子どもを育てる上で、人任せにせず、自分の思いや考えをきちんと主張させることを学ばせている。多様性のあるアメリカ社会で生きていく上で自己主張することはとても重要であるからだと感じた。それが、自分で授業の最初に提示されたゴールに向けて予復習したことを積極的に自己主張するという姿につながっているのだと感じた。そして、その姿から子どもたちが自らを高めたという強い気持ちが伝わってきた。

② 授業観

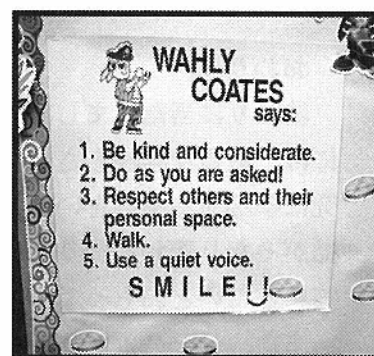
子どもたちにゴールを先に提示し、「なぜこの学習をやるのか」、「なにができるようになればよいのか」などやるべきことを理解させてから、学習活動が進められていた。また、教師は、指示や発問に対して、理解したかどうかの確認をしていなかった。これは、日本

との大きな違いである。それは、指示を待つ受身的な日本の子どもたちとは違い、子どもたちが疑問や意見等を積極的に自己主張することができるからであると思った。アメリカの授業は、受動的なものではなく、能動的なものであると感じた。この点は大いに学ぶべき点であった。日本では、誰かの意見をただ聞いているだけのまかせっきり学習でも過ごすことができる、黙っていてもわかってもらえるという学習形態が主である。また、日本では、パターン化された授業の中で、みんなと同じようにということ指導する。そして、教師は、子どもたちが関心をもちやすいように発問や掲示・指示の仕方を工夫する。つまり、たくさんの情報を提示している。そしてそれは、子どもが自ら進んで創意工夫したり論理的に考えたり自己主張したりする機会や力を奪ってしまっているのではないかと授業参観を通して感じた。

③ 学校観

英語で話すことが得意でない私に対して、アメリカの子どもたち・先生方は温かく接してくれた。どこにいてもどんなときでも明るく温かく接してくれる校長先生を中心に、人とのかかわりを大切にするあたたかな校風を感じた。また、教師の担当の学年や教室が変わらないことに大変驚いた。それは、全ての学年にプロフェッショナルがいるということになる。またその点を生かして、各教室には、教師の願いをもとにそれぞれの工夫をこらした掲示がしてあった。教室内の読書コーナーの工夫等学ぶべき点がたくさんあった。

また、学校のきまりについても関心をもった。日本の学校のきまりと同じものもあったが、「他を尊重する」という決まりに驚いた。様々な人種のいるアメリカの小学校で、他を尊重することはとても重要なことであると改めて思った。



【写真5 学校のきまり】

4. 2 自分自身についての変容

アメリカの学校を訪れることはもちろんのこと、アメリカの子どもたちに授業をするというのは、初めての経験であった。今回の実地研究で大きく影響を受けたことは、アメリカの子どもたち・先生たちのノンバーバルコミュニケーションの豊かさである。これは大いに学ぶべきところがあると感じた。表情や仕草を加えて相手に伝えることで、より豊かなコミュニケーションを図ることができるということ、日本の子どもたちに伝えていきたいと強く思った。

また、あまり英語で話すことが得意でない私をアメリカの子どもたち・先生方は温かく受け入れてくれた。知ろうとしてくれた。お互いの国の文化や考えには違いがあり、全てを理解するという事は簡単なことではないように思う。しかし、発信するだけでなく、まずは受け入れ、そして知るということが、コミュニケーションの第一歩であるとより強く感じるようになった。

4. 3 グローバルマインドに関する変容

私はこれまで海外渡航経験はあったが、海外でできたことといえば、パン1つ買ったことだけであった。言葉が通じないからというのが主な理由であった。言葉の違いを意識しすぎたため、かかわりをもつことにいつも躊躇していた。しかし、10日間のアメリカでの生活の中で、その考えが大きく変わった。それは、この研修で出会ったたくさんの人たちの温かさである。例えば言葉がうまく通じなくても受け入れ、話そうとしている姿、自分が知っている限りの日本の情報を使ってかかわりをもとうとする姿からである。言葉の壁=かかわりの壁ではないということがわかった。気がつくと、たくさん外国人と話したい・知りたい・かかわりたい・伝えたいという気持ちが強くなり、行動にも表れた。この点は、今研修に参加させていただいて大きく私が変わった点である。

前述の通り、私はお互いの国の文化や考え・歴史には違いがあり、全てを理解することは簡単なことではないと考えている。しかし、相手を尊重したりかかわったりすることは誰にでもできると思う。私がこの研修で感じた、話したい・知りたい・かかわりたい・伝えたいという気持ちが国際理解の第一歩であるのではないかと考えることができるようになった。

5. おわりに

終わりに当たりまして、今回の研修を計画実施して下さったGPS Cの関係者の皆様には、貴重な経験をさせていただき、心より感謝申し上げます。今回の体験型海外実地研究に参加する機会をいただいたことで、私自身の教育観・人生観等様々な考え方や思いが、拡がったり変わったりしました。この研修で学んだことを、これからの教師生活に生かしていきたいとおもっております。

また、ノースカロライナ州で私たちの研修を受け入れて下さった関係者の方々にも、心より感謝申し上げますとともに、GPS Cの今後の更なる発展をお祈りいたします。ありがとうございました。